

2026年6月25日

国立大学法人横浜国立大学

株式会社DTS

横浜国立大学とDTS、受験生のプレゼンティーズム可視化研究を開始 ウェアラブルデータを活用した個別最適な学習支援の実現を目指す

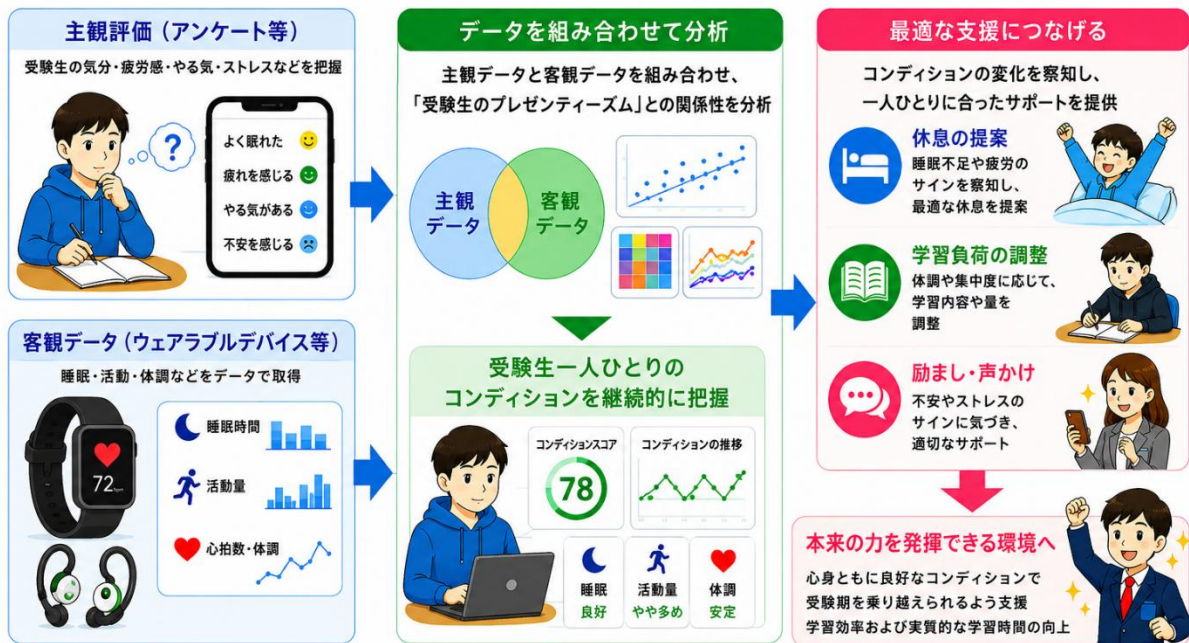
国立大学法人横浜国立大学大学院工学研究院 杉本 千佳准教授と株式会社DTS（東京都中央区、代表取締役社長 北村 友朗）は、2026年6月より、「受験生（中学生、高校生）のプレゼンティーズム」※1に着目し、学習コンディションを可視化する“学習支援AIモデルの構築”に向けた共同研究を開始します。

「受験生のプレゼンティーズム」とは、健康問題に起因して本来発揮できるパフォーマンスが低下している状態を表す「プレゼンティーズム」の考え方を教育の場面に応用し、集中力や理解度、学習意欲、学習遂行能力が低下している状態と捉えています。詳細は下記「※1」をご参照ください。

本研究では、受験生本人のアンケート等による主観評価と、ウェアラブルデバイスのセンサーデータをもとに算出される睡眠、活動、ストレス、集中度などを表す客観指標を組み合わせ、受験勉強期間における学習コンディションに影響する要因を分析します。そこから、学習コンディション向上に最適な介入による支援につなげ、将来的には受験生が一人で抱え込まず、安心して学習に取り組める個別最適な学習支援の実現を目指します。

また、本共同研究の成果を学習現場で活用可能なサービスへと発展させるため、学習塾・予備校、通信教育事業者、オンライン学習サービス事業者などとの実証も視野に入れ、共同研究に協力いただける教育事業者を募集します。

研究の概要 受験勉強期間における学習コンディションをデータで可視化し、最適な支援につなげる研究



受験生が一人で抱え込まず、安心して学習に取り組める個別最適な学習支援の実現を目指します

■受験生が一人で抱え込まずに学び続けられる環境づくりに貢献

受験生は、入学試験の本番に向けて学習コンディションの管理が求められます。しかし、睡眠や疲労、不安など学習以外の要因により、本来の実力を十分に発揮しにくい、受験生のプレゼンティーズムに陥ることがあります。そのため、受験生の学習コンディションを可視化・分析し、将来的には最適な休息提案や学習負荷の調整などを支援することで、心身ともに良好な受験勉強期間を過ごせる環境づくりを目指します。これにより、受験生がより前向きに集中した状態で学習に取り組める時間を増やし、質の高い学習につなげることを目標とします。※2

■研究の概要

本共同研究では、最初のフェーズとして、受験勉強期間における学習コンディションを可視化するため、受験生本人のアンケート等による主観評価と、ウェアラブルデバイスのセンサデータをもとに算出される睡眠・活動・ストレス・集中度などを表す心理生理・行動指標を組み合わせて、受験生が本来の力を発揮しにくい「受験生のプレゼンティーズム」の状態を把握し、受験生本人や保護者、学習塾・予備校の講師にも分かりやすい形で、日々の状態を「学習コンディション」として可視化する“学習支援 AI モデルの構築”を目指します。

■本研究の発展性：次世代の学習環境実現に向けて

教育分野では、AI・ICT・データ活用により、一人ひとりの状況に応じた個別最適な学びを実現していくことが期待されています。成績や学習時間に加え、心身の状態が反映された学習コンディションを把握することで、受験生一人ひとりに寄り添った学習支援のあり方を検討します。

日々の小さな変化に気づくための補助情報として学習コンディションを可視化し、受験生本人が自身の状態を客観的に認識し振り返り、保護者や学習塾・予備校の講師、通信教育・オンライン学習サービスの学習支援担当者が適切な声かけや学習負荷の調整を行うきっかけを提供します。

横浜国立大学とDTSは、本研究を通じて受験生が不調や不安を一人で抱え込まず、周囲の支援を受けながら前向きに学び続けられる環境づくりに貢献していきます。

※ 1) 受験生のプレゼンティーズム

プレゼンティーズムとは、欠勤はしていないものの、体調不良やメンタル不調などの影響により、本来発揮できるはずのパフォーマンスが低下している状態を指します。この概念は産業保健分野等で広く用いられており、世界保健機関（WHO）等の国際的な研究枠組みでも、ハーバードメディカルスクールの研究者らが関与して開発された「WHO-HPQ（健康と労働パフォーマンスに関する質問紙）」を通じて測定・評価されるなど、健康と生産性の関係を把握する指標として活用されています。近年はこの考え方を職場だけでなく、教育の場面にも広げ、学習に取り組んでいるにもかかわらず、体調不良やメンタルヘルス不調などの影響により、集中力や理解度、学習意欲、学習遂行能力が低下している状態を「学生のプレゼンティーズム」として捉える考え方があります。本共同研究では、入学試験の合格を目指して勉強を行うために、日常生活サイクルにおける学習の優先度が高く、受験に向けたプレッシャーや不安を抱えやすい受験生におけるその状態を「受験生のプレゼンティーズム」と捉えます。

※ 2) 本研究で得られる情報は、受験生の学習支援に活用するための参考情報であり、医療・メンタルヘルス診断、能力判定、合否予測、孤独や孤立の状態の判定を目的とするものではありません。

■コメント

横浜国立大学 大学院工学研究院 杉本 千佳准教授

進化した生成 AI は、私たちの質問や指示に即座に答えを返してくれます。しかし、自身が表現できない心身の状態や学習の状況を客観的に理解するには、データを用いた分析・評価が必要です。本共同研究は、日常生活の中でウェアラブルデバイスから取得可能なデータと AI を活用することで、受験生のプレゼンティーズムという従来可視化されにくかった学習問題を体系的に捉える評価枠組みの構築を目指しています。ヒューマンセンシング、生体データ利活用の知見と、DTS様の社会実装力を掛け合わせることで、学習過程重視・個別最適化教育に向けたデータ活用モデルを提示したいと考えています。

株式会社D T S代表取締役社長 北村 友朗

受験勉強期間には、学習時間や成績だけでなく、睡眠、活動、集中度などを含めた学習コンディションの把握が重要です。本共同研究では、横浜国立大学 杉本千佳准教授のヒューマンセンシングや生体データ解析に関する知見と、当社のデータ活用および社会実装の力を掛け合わせ、受験生の学習コンディションを可視化する学習支援AIモデルの構築に取り組みます。D T Sは、本研究成果を教育現場で活用し、受験生が一人で抱え込まず、安心して学習に取り組める個別最適な学習支援の実現を目指します。

<横浜国立大学の概要>

横浜国立大学は、四つの旧制学校を母体に1949年に新制大学として設立したOne Campusに5学部・6大学院を有する総合大学です。「実



践性」「先進性」「開放性」「国際性」「多様性」を理念として掲げ、多様な学術知・実践知を動員し、地球規模の課題に向き合う「世界水準の研究大学」を目指しています。<https://www.ynu.ac.jp/>
所在地：〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

<株式会社D T Sの概要>

D T Sは、総合力を備えたトータルシステムインテグレーター (Total Sler) です。主に金融、情報通信、製造、公共、建築分野向けに、コンサルティングからシステム設計・開発、基盤構築・運用までをワンストップで提供します。



また、D T Sグループは、システムに関わるさまざまな専門性を活かした付加価値の高いサービスを提供します。<https://www.dts.co.jp/>

本社所在地：〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-23-1 エンパイヤビル

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社D T S 事業開発部 担当：阿良田、涌田
TEL：03-6914-5163 E-mail：biz-alliance@dts.co.jp

横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授 杉本 千佳
E-mail：sugimoto-chika-zb@ynu.ac.jp

<報道機関からのお問い合わせ先>

株式会社D T S 広報部 担当：細田、角田
TEL：03-6914-5463 E-mail：press@dts.co.jp

横浜国立大学 総務企画部リレーション推進課
TEL：045-339-3027 E-mail：press@ynu.ac.jp